

2019（令和元）年度  
自己点検・評価報告書

淑徳大学短期大学部

# 目次

## I 自己点検・評価体制

## II 本学の概要

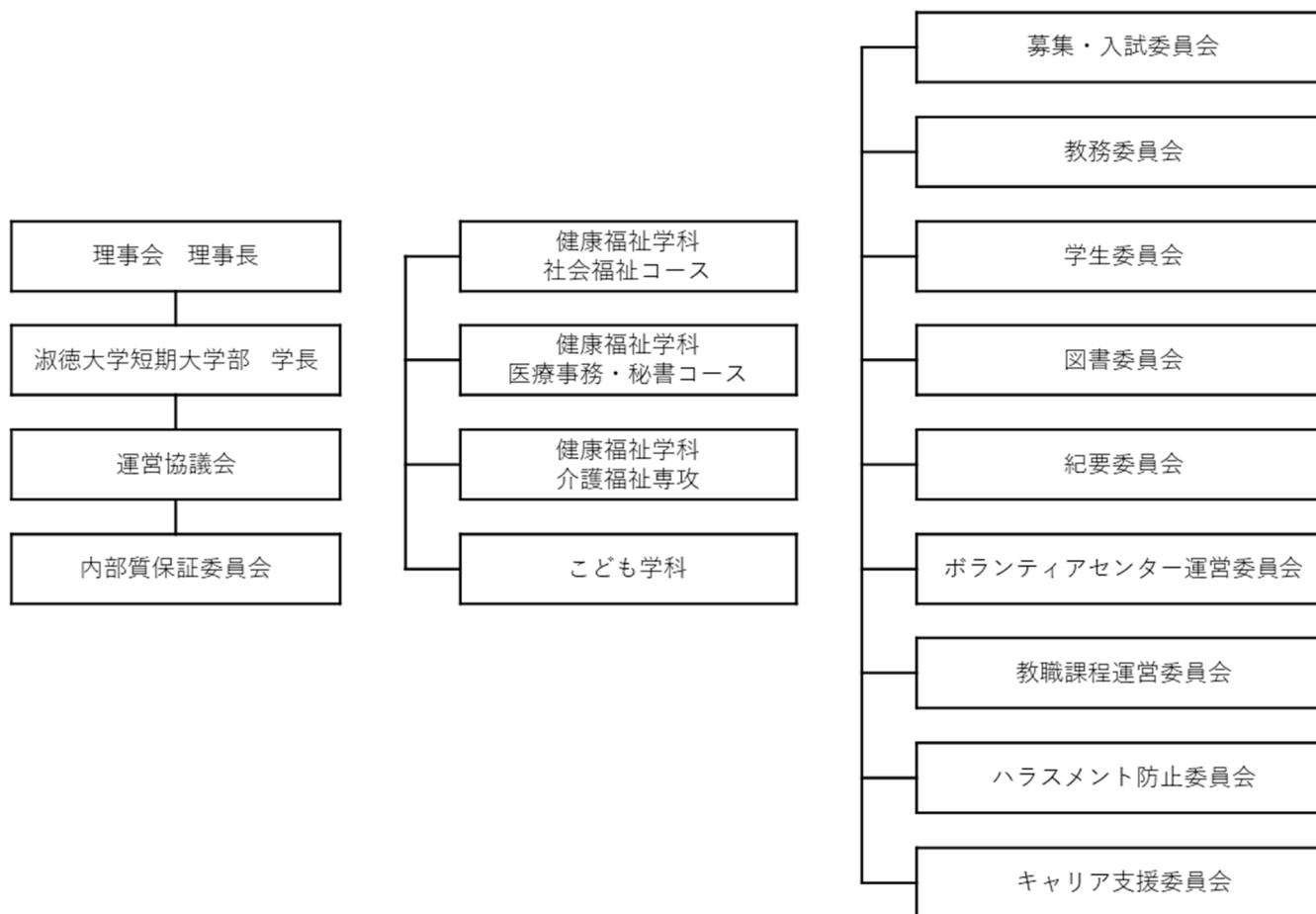
1. 建学の理念・精神・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
2. 教育組織と目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
3. 三つの方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
4. 教員組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
5. 学生に関する情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
6. 教育課程に関する情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

## III 学科・委員会 点検・評価

1. 社会福祉コース・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
2. 医療事務・秘書コース・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
3. 介護福祉専攻・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
4. こども学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
5. 募集・入試委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
6. 教務委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
7. 学生委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
8. 図書委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
9. 紀要委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
10. ボランティアセンター運営委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
11. 内部質保証委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
12. 教職運営委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
13. ハラスメント防止委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
14. キャリア支援委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

## I. 自己点検・評価体制

本学は、教育・研究水準の向上を図り、本学に課せられた社会的使命を達成するため、教育・研究及びその運営について自ら点検・評価を行い、自己点検・評価報告書を作成する。



## II 本学の概要

### 1. 建学の理念・精神

「大乘仏教精神」をもって建学の精神としています。この「大乘仏教精神」を具体化し表現としたものとして「共生」の理念としています。人はもちろん、社会、地球に優しい心をもつこと。知恵を働かせ、民族や国境を越えて助け合いながら生きること。すべての生物を守り、いたわること。こうしたことは、時代や、社会の変化に関係なく、人が人として生きるための大切にしなければならない心であると考えています。

本学は、淑徳女学校創設時の「淑徳漲美」の伝統を守り、各個人の自立した生き方を仏教思想に基づき、共生の理念のもと、社会に貢献できる人材の育成と時代の変化に対応した教育を行っています。

本学は女子教育を实践する為に誕生しましたが、創立 60 周年を契機に男女共学にしました。

### 2. 教育組織と目的



#### 教育の目的（学則第1条）

本学は、大乘仏教精神に基づき、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、実地的な専門の学芸を教授研究し、教養のある人材を育成することを目的としています。

## 教育研究上の目的（学則第1条の2）

### 【健康福祉学科】

建学の理念を基礎として、現代の福祉ニーズに対応し、創造性を重視した教育を行い、福祉サービスを担う中核的人材の育成を目的とする。

（社会福祉専攻）社会福祉全般の専門的知識・技術をもって、より豊かな福祉サービスを提供しうる社会福祉従事者、医療事務従事者の育成を目的とする。

（介護福祉専攻）現代の介護サービスに対応すべく専門的知識・技術をもって、人間の尊厳を尊重した人間性溢れる介護福祉士の養成を目的とする。

### 【こども学科】

現代社会のニーズに応えるべく、新しい教育・保育・子育て支援を創造し、子ども分野の専門的知識、技術を備え、実践力を発揮できる人材の育成を目的とする。

## 3. 淑徳大学 短期大学部 三つの方針

平成28年3月31日付文部科学省高等教育局長より通知のあった「学校教育法施行規則の一部を改正する省令の公布について」を受け、本学では三つの方針を策定致しました。

### 1.卒業認定・学位授与の方針(DP：ディプロマ・ポリシー)

淑徳大学短期大学部では、62単位の単位修得と必修等の条件を充たし、以下の知識と能力を修得した学生に卒業を認定し学位を授与します。

- (1) 本学の目指す建学の精神「大乘仏教精神」に基づく共生の理念と「感恩奉仕」を十分に理解し、自らの人格向上及び社会福祉・教育の増進に寄与できる能力を修得している。
- (2) 現代社会における多様な問題に対して多面的な視点から論理的に分析し、問題を解決する能力を身に付けている。
- (3) 専門職者としての高い倫理観と使命感を持ち、他者と協働できるコミュニケーション能力を有している。
- (4) 各専門職における必要な知識・技能を有し、社会貢献できる能力を有している。

## 2.教育課程編成・実施の方針(CP：カリキュラム・ポリシー)

本学では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。また、建学の精神を身に付けるという教育理念に基づき、「宗教」「福祉」「教育」の三位一体を基本とした教育を行います。

### 1) 教育内容

- (1) 卒業必修科目である「宗教」、「共生論」により建学の精神について学ぶと共に、その具体的実践としての地域貢献、「ボランティア活動」を必須とすることで、実社会に主体的に参加する心構えや地域との繋がりなどの共同的な姿勢について体験的に学びます。
- (2) 教養教育を担う主要な科目群である教養科目を複合的に学ぶことで、専門的な学修に繋がる知識や技能と主体的に学ぶ姿勢・態度、社会人として必要な思考・行動様式を身に付けます。
- (3) 専門教育においては、各専攻、コースの体系性に基づき、それぞれのカリキュラムマップにおける専門科目を配置します。
- (4) 授業で修得した知識及び理論の実践の場として、現場実習を実施します。
- (5) 1年次の演習科目（ゼミ）では、初年次教育等を通して短大への適応をはかり、基本的な学習スキルと社会に出てから求められるコミュニケーション・スキルを修得します。2年次の演習科目（ゼミ）では、卒業研究を必修とし、専門科目を中心とする教育内容の統合と総合化を行います。
- (6) 卒業後の希望進路に応じた履修モデルを提示するとともに、学生の適性やキャリア形成を見据えた組織的なキャリア教育を展開します。

### 2) 教育方法

- (1) 知識の修得だけでなく、主体的な学びの力を高めるために、参加型授業や授業外の積極的な学修などアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実践します。
- (2) シラバス（授業計画）には、卒業認定・学位授与の方針に基づく学修の到達目標、評価基準、授業内容、授業外学修等を具体的に記載します。
- (3) 実学教育を重視し実践するために、各専門職に応じた現場実習を段階的に行います。

### 3) 評価

- (1) 学年ごとの単位取得率の評価を行うとともに、GPAによって教育課程全体を通した学修成果の達成状況を査定します。また、GPAによる学生個人の評価を学修支援・指導に活用します。なお、個々の科目の単位認定にあたっては、到達目標の内容を修得しているか否かに留意し、厳格な成績評価を行います。
- (2) 上記(1)によって到達目標に達していない学生を把握し、再試験の機会を設けることによって、不足分の学修を自ら行えるようにします。
- (3) 希望する職業へ就職できたかどうか（就職率、資格・免許を活かした専門領域への就業率）、又は進学等の成否について確認し、学修成果の達成状況を査定します。
- (4) 授業評価アンケートを実施し、個々の授業内容、授業方法の改善や組織全体として授業が円滑に運営されているかどうかの検証を行います。

### 3.入学者受入れの方針(AP：アドミッション・ポリシー)

本学は、卒業認定・学位授与の方針及び教育課程の編成・実施の方針との関連性を踏まえて、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を定めます。

#### 1) 求める学生像

- (1) 本学の建学の精神である共生の理念を理解している。
- (2) 高等学校で履修した学習内容について理解し、主要科目に関する基本的な知識を修得できている。
- (3) 本学の教育方針及び教育分野に興味と関心を持ち、本学での学修に目的と意欲を有している。

#### 2) 入学選抜の方法

次の3つの方法を単独又は複数組み合わせ選抜を行う。

- (1) 高等学校等での評定平均値及び活動の履歴・成果等に関する書類審査
- (2) 面接
- (3) 高等学校等での履修科目に対する学力検査

#### 3) 入学前に学習しておくことが期待される学習内容及び学習態度

高等学校での学習において、科目学習における基礎的な知識の修得及び学習意欲の保持が望まれる。

#### 4. 教員組織 (2019年5月1日現在)

	学部・学科	課程等	教員数(職級別教員数)
淑徳大学短期大学部 Shukutoku University Junior College	こども学科 (Department of Early Childhood education and childcare)		16名(教授6名・准教授10名)
	健康福祉学科 (Department of Health and welfare)	社会福祉専攻 (Social welfare Speciality)	5名(教授2名・准教授1名・講師1名・助教1名)
		介護福祉専攻 (Care welfare Speciality)	4名(教授2名・准教授0名・講師0名・助教2名)

#### 5. 学生に関する情報

淑徳大学短期大学部	こども学科	入学者数	収容定員	在学者数	収容定員充足率
		229名	500名	475名	0.95
淑徳大学短期大学部	健康福祉学科	入学者数	収容定員	在学者数	収容定員充足率
		76名	180名	183名	1.02

2019年5月1日現在

#### 学生の状況

	入学者推移	退学・ 除籍者数	中退率	留年者数	社会人 学生数	留学生数及び 海外派遣学生数
(対象年度)	(29・30・01)	(H30)	(H30)	(R01)	(R01)	(R01)
こども学科	260・248・229	13	2.6%	4	2	0
健康福祉学科	91・108・76	5	2.6%	4	3	18



## 就職及び卒業後の進路

	卒業生数	就職希望者数	就職者数	進学者数	就職率
こども学科	246名	224名	224名	1名	100%
健康福祉学科	78名	71名	71名	3名	100%

2019年5月現在

## 6. 教育課程に関する情報

### 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準

学科・専攻		修業年限	卒業要件単位数			学位	
				必修	選択		計
こども学科		2年	教養	6	8	62	短期大学士（教育・保育）
			専門	4	44		
健康福祉学科	社会福祉専攻		教養	6	10	62	短期大学士（社会福祉）
			専門	6	40		
	介護福祉専攻		教養	6	10	62	
			専門	6	40		

健康福祉学科 社会福祉コース カリキュラムマップ

DPは、ディプロマポリシーを示します。

DP (1) 本学の目指す建学の精神「大乗仏教精神」に基づく共生の理念と「感恩専任」を十分に理解し、自らの人格向上及び教育・社会福祉の増進に寄与できる能力を修得している。		DP (4) 各種専門職における必要な知識・技能を有し、社会貢献できる以下の能力（社会福祉分野における基礎的な能力・知識・技術）を有している。								
		①人間と社会の関係及び、現代社会における福祉制度の意義や理念等について理解している。	②総合的かつ包括的な相談支援の知識と技術を修得し、利用者支援ができる。	③地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術を修得し、福祉ネットワークづくりができる。	④専門的対人援助職である社会福祉士に必要な「理論・制度・サービスの理解」「援助の方法・技術の理解」についての知識・技術を総合的に修得し、利用者に対する支援ができる。	⑤福祉専門職としての基本的態度及び、人権を尊重する高い倫理観を有している。				
		DP (3) 専門職としての高い倫理観と使命感を持ち、他者と協働できるコミュニケーション能力を有している。								
		DP (2) 現代社会における多様な問題に対して多面的な視点から論理的に分析し、問題を解決する能力を身につけている。								
		教養科目		社会福祉士関連科目			専門科目	介護職員初任者研修	その他	
		建学の精神に関する科目	学部共通教養科目	人・社会・生活と福祉の理解に関する知識と方法	総合的かつ包括的な相談支援の理念と方法に関する知識と技術	地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術	サービスに関する知識	実習・演習		
2年	後期		△経済学 ▲△権利保護と成年後見制度 △情報処理演習Ⅱ △英語Ⅳ	◇△社会福祉調査論		◇△福祉サービスの組織と経営	▲△権利保護と成年後見制度※1	◇△ソーシャルワーク演習Ⅴ ◇△ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		△福祉概論
	前期		△英語Ⅲ △就職実践講座		◇△ソーシャルワークの方法Ⅱ ◇△ソーシャルワークの方法Ⅳ	◇△地域福祉Ⅱ ◇△福祉行政財政と福祉計画	◇△社会保障Ⅱ ◇△公的扶助論 ▲△就労支援サービス論 ▲△司法福祉論 ◇△児童・家庭福祉サービス論 ◇△保健医療サービス論	◇△ソーシャルワーク演習Ⅳ ◇△ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ◇△ソーシャルワーク演習Ⅲ ◇△ソーシャルワーク実習		◎社会福祉演習Ⅱ
1年	後期	◎宗教	△文学 ◆△心理学※1 △情報処理演習Ⅲ ◎英語Ⅱ △就職支援講座	◆△心理学※1 ◇△社会福祉概論Ⅱ	◇△ソーシャルワーク総論Ⅱ ◇△ソーシャルワークの方法Ⅰ ◇△ソーシャルワークの方法Ⅲ	◇△地域福祉Ⅰ	◇△社会保障Ⅰ ◇△高齢者福祉サービス論※2 ◇△障害者福祉サービス論※2	◇△ソーシャルワーク演習Ⅱ ◇△ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	◇△高齢者福祉サービス論※2 ◇△障害者福祉サービス論※2 ○△福祉環境論※3 ○△生活支援技術Ⅰ ○△生活支援技術Ⅱ(集中授業)	○△福祉環境論※3 △社会福祉の歴史 △インテリア・デザイン論 △手話によるコミュニケーションⅡ △海外社会福祉事情(集中授業)
	前期	◎共生論	◎英語Ⅰ △哲学 ◆△社会学※1 △法学(日本国憲法) △情報処理演習Ⅰ	◆△医学概論 ◆△社会学※1 ◎◇社会福祉概論Ⅰ	◇△ソーシャルワーク総論Ⅰ		◇△介護福祉論※2	◇△ソーシャルワーク演習Ⅰ	◇△介護福祉論※2 ○△介護の理解Ⅰ ○△介護の理解Ⅱ	◇△障害者福祉概論 △手話によるコミュニケーションⅠ

※開講学年等は、変更になる場合があります。

◎卒業必修科目  
 ◇社会福祉士必修科目  
 ▲社会福祉士選択必修科目②  
 △卒業選択科目  
 ◆社会福祉士選択必修科目①  
 ○介護職員初任者研修必修科目

※1印は、教養科目・専門科目(社会福祉士関連科目)と重複  
 ※2印は、社会福祉士関連科目と介護職員初任者研修関係科目と重複  
 ※3印は、介護職員初任者研修関係科目と専門科目(その他)と重複

健康福祉学科 医療事務・秘書コース カリキュラムマップ

DPは、ディプロマポリシーを示します。

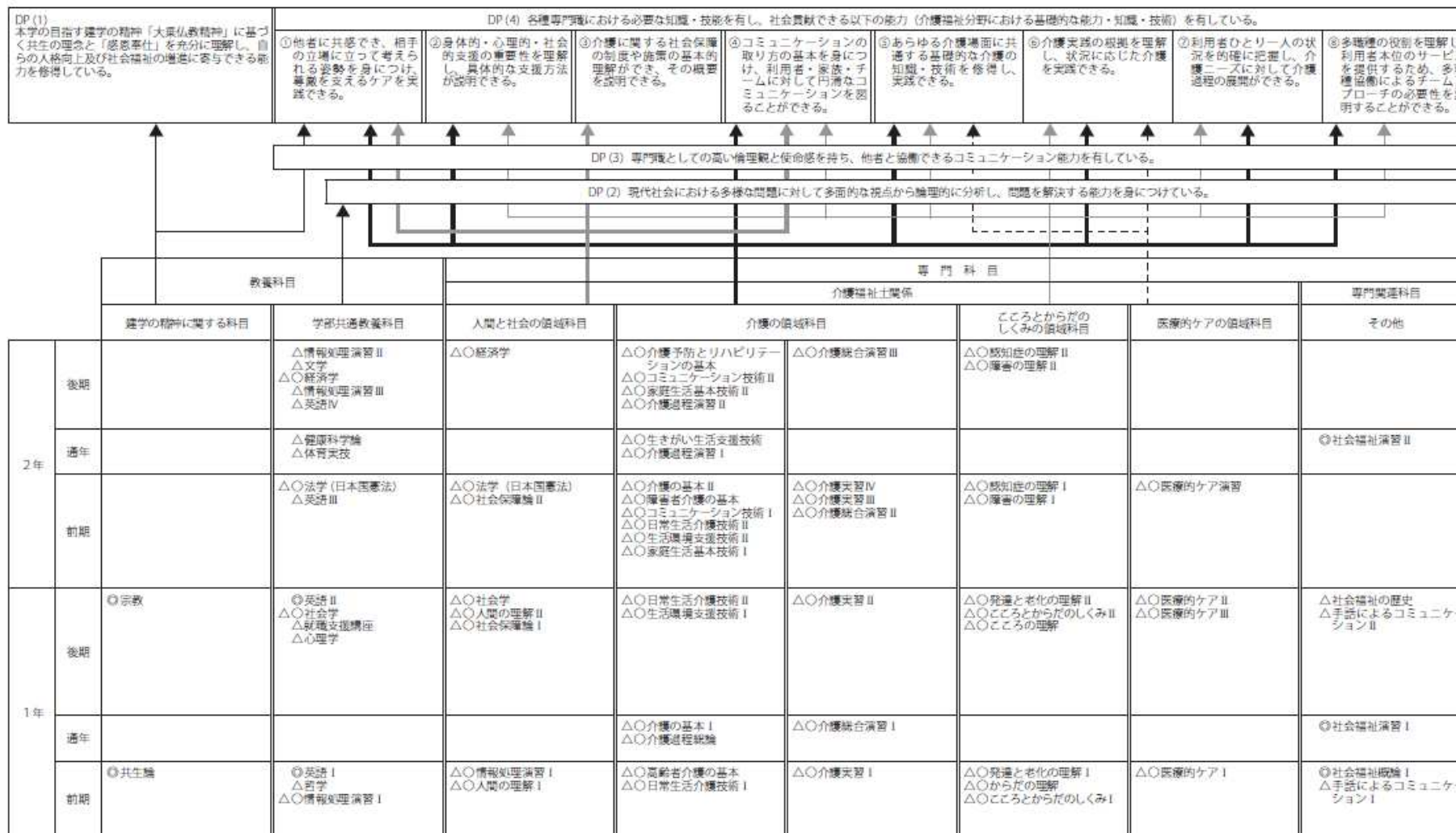
DP (1) 本学の目指す建学の精神「大乗仏教精神」に基づく共生の理念と「慈悲心」を十分に理解し、自らの人格向上及び社会福祉の増進に寄与できる能力を修得している。		DP (4) 各専門職における必要な知識・技能を有し、社会貢献できる以下の能力（社会福祉、医療事務分野における基礎的な能力・知識・技術）を有している。										
		① 医療保険制度や診療報酬の仕組みを理解し、診療報酬請求事務に関する知識と基礎的能力を身につけている。	② 医療事務理に必要な基礎医学や医療用語、医療関連法規の知識を修得している。	③ 医療マネジメントに関する基礎的知識及び経営課題を発見・解決するための思考力、分析力を有している。	④ 診療録の内容精査とICDコーディング技能を有している。	⑤ 医療情報システムに関する基礎的知識を有し、医療情報技術の推進役となることができる。	⑥ 医療従事者に求められる高い倫理観及びホスピタリティマインドを有している。					
		DP (3) 専門職としての高い倫理観と使命感を持ち、他者と協働できるコミュニケーション能力を有している。										
		DP (2) 現代社会における多様な問題に対して多面的な視点から論理的に分析し、問題を解決する能力を身につけている。										
		教養科目 専門科目 医療事務・秘書関連科目 専門関連科目										
		建学の精神に関する科目	学部共通教養科目	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	その他
2年	後期		△英語Ⅳ △権利義務と成年後見制度 △〇経済学 △情報処理演習Ⅲ	△医療事務実践Ⅱ △医療事務特講		△医療データ解析演習 △簿記会計実践	△ICDコーディング演習Ⅱ	△医療情報システム △経営情報論				△福祉情報論
	通年										◎社会福祉演習Ⅱ	
	前期		△英語Ⅲ	△医療事務実践Ⅰ △個別報酬請求事務 △歯科医療事務Ⅱ △介護請求事務	△医薬関係法規 △薬事関係法規 △医療秘書概論	△医療マネジメント論 △簿記会計入門	△ICDコーディング演習Ⅰ	△医事コンピュータ演習Ⅲ △医事コンピュータ演習Ⅳ △情報技術		△医療施設実習		△保健医療サービス論
1年	後期	◎宗教	◎英語Ⅱ △〇心理学 △〇社会学 △情報処理演習Ⅱ	△医療事務基礎Ⅱ △医療事務基礎Ⅳ △医療事務基礎Ⅵ △歯科医療事務Ⅰ	△薬学入門		△DPC概論	△医事コンピュータ演習Ⅰ △医事コンピュータ演習Ⅱ	△ホスピタリティ・コミュニケーションⅡ △手話によるコミュニケーションⅡ	△医療施設実習指導		△〇社会福祉概論Ⅱ △福祉情報論 △インテリア・デザイン論 △高齢者福祉サービス論 △海外社会福祉事情(集中授業)
	通年		△健康科学論 △体育実技								◎社会福祉演習Ⅰ	
	前期	◎共生論	◎英語Ⅰ △文学 △哲学 △〇法学(日本国憲法) △情報処理演習Ⅰ	△医療事務基礎Ⅰ △医療事務基礎Ⅲ △医療事務基礎Ⅴ	△〇医学概論					△手話によるコミュニケーションⅠ		◎〇社会福祉概論Ⅰ △〇介護福祉論

※開講学年等は、変更になる場合があります。

◎卒業必修科目 △卒業選択科目 ○社会福祉主事選択科目

健康福祉学科 介護福祉専攻 カリキュラムマップ

DPは、ディプロマポリシーを示します。



※開講学年等は、変更になる場合があります。

◎卒業必修科目 △卒業選択科目 ○介護福祉士必修科目

こども学科 カリキュラムマップ

DPは、ディプロマポリシーを示します。

<p>DP (1) 本学の目指す建学の精神「大乗仏教精神」に基づく共生の理念と「感恩奉仕」を充分に理解し、自らの人格向上及び教育・社会福祉の増進に寄与できる能力を修得している。</p>		<p>DP (4) 各種専門職に必要な知識・技能を有し、保育者として社会と地域に貢献できる基礎的な能力・知識・技術を有している。</p>		<p>DP (3) 専門職としての高い倫理観と使命感を持ち、他者と協働できるコミュニケーション能力を有している。</p>		<p>DP (2) 現代社会における多様な問題に対して多面的な視点から論理的に分析し、問題を解決する能力を身につけている。</p>			
<p>①保育の本質や目的について理解し、子どもや家庭に関する様々な問題に対し、「大乗仏教」、「共生」の精神に基づく自らの考えと社会的責任をもって、行動・表現することができる。</p>		<p>②子どもの発達や成長についての確かな知識を有し、教育・福祉、子育て支援の場において現実的で適切な対応ができる。</p>		<p>③子どもと家庭に関する知識、保育・教育に関する幅広い理論と技術を修得し、多様な環境にある子どもに対して協働的な態度でかかわることができる。</p>		<p>④主体的な学修の中で培われる創造的的思考力を用い、実習を通じて総合的な保育実践力を身に付けると共に、自己管理および生涯に亘り学ぶ姿勢を継続できる。</p>		<p>⑤ボランティアや地域貢献等のさまざまな人間関係を築いて自己管理および生涯に亘り学ぶ姿勢を継続できる。</p>	
<p>教養科目</p>		<p>保育士関係 / 教職 (幼稚園教諭) 関係</p>		<p>専門科目</p>					
保育士	建学の精神に関する科目	学部共通教養科目	保育の本質・目的の理解に関する科目	保育の対象の理解に関する科目	保育の内容・方法に関する科目	保育の表現技法	保育実習・総合演習	その他	
教職	建学の精神に関する科目	免許法66条6関係科目	教職の意義に関する科目	教育の基礎理論に関する科目 生徒指導・教育相談及び進路指導	教育課程及び指導法に関する科目	教科に関する科目	教育実習 教職実践演習		
2年	卒業	<ul style="list-style-type: none"> <li>△経済学</li> <li>△権利擁護と成年後見制度</li> <li>△情報処理演習Ⅲ</li> <li>△英語Ⅳ</li> </ul>	◇△保育者論	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆△子ども家庭支援の心理学</li> <li>◇△子どもの食と栄養</li> <li>◇◆△幼児理解と教育相談(カウンセリング含)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆△幼児・病後児保育</li> <li>◆△児童文化</li> <li>○◇△表現(リトミック)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○◇△図画工作と表現</li> <li>●△生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○◇総合演習Ⅱ(保育実践演習)</li> <li>○教職実践演習</li> <li>▲保育実習Ⅲ</li> <li>▲保育実習Ⅱ</li> </ul>		
					◆△音楽Ⅱ		▲実習指導Ⅲ ○▲実習指導Ⅱ		
1年		<ul style="list-style-type: none"> <li>△就職実践講座</li> <li>△心理学</li> <li>△文学</li> <li>△英語Ⅲ</li> </ul>	◇△社会福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆△発達心理学Ⅲ</li> <li>◇□△子ども家庭支援論</li> <li>◇△子どもの保健</li> <li>○◇△教育心理学</li> <li>○△教育社会学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆△保育児学</li> <li>◇△保育の計画と評価</li> <li>◇△特別支援教育(障害児保育を含む)</li> <li>◇△子育て支援</li> <li>○◇△環境</li> </ul>	●◇△体育と遊び	○教育実習Ⅱ ◇保育実習Ⅰ-2(施設)		
	◎◇宗教	<ul style="list-style-type: none"> <li>△就職支援講座(文章表現)</li> <li>△生物学</li> <li>○△情報処理演習Ⅱ</li> <li>◎◇◇英語Ⅱ</li> </ul>	◆△乳幼児福祉論 ○◇△教育原理	●◆△発達心理学Ⅱ ○◇△子どもの健康と安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>○◇△教育課程総論</li> <li>○◇△人間関係</li> <li>●△身体表現</li> </ul>		○保育実習Ⅰ-1(保育所) ○教育実習Ⅰ	△海外福祉事情	
	◎◇共生論	<ul style="list-style-type: none"> <li>○◇△健康科学論</li> <li>○◇△体育実技</li> </ul>			◇△□乳児保育Ⅰ・Ⅱ	○◇△音楽と表現	○◇実習指導Ⅰ	◎◇総合演習Ⅰ	
入学		<ul style="list-style-type: none"> <li>△哲学</li> <li>△社会学</li> <li>○△法学(日本国憲法)</li> <li>○△情報処理演習Ⅰ</li> <li>◎◇◇英語Ⅰ</li> </ul>	◇△子ども家庭福祉 ◇△社会的養護Ⅰ・Ⅱ ◇△保育原理	○◇△発達心理学(保育の心理学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇保育内容総論</li> <li>○◆△自己表現・グループ表現</li> <li>○◆△進形</li> <li>○◆△発達</li> <li>○◆△言葉</li> <li>○△教育方法論</li> </ul>	○△国語			

※ 注意：開講学期は、所属クラスにより変更になる場合があります。

- 卒業必修科目
- △ 卒業選択科目
- 保育士必修科目
- ◆ 保育士選択必修科目①
- 教職必修科目
- 教職自由選択科目
- 育児セラピスト・ベビー・マッサー・ジインストラクター必修科目
- 育児セラピスト・ベビー・マッサー・ジインストラクター選択科目
- ▲ 保育士選択必修科目②

### Ⅲ 学科・委員会 点検・評価

※評価基準 以下のS～Dの5段階評価で、年度当初の計画に基づいた各目標の評価を行う。

- S → 目標に対する達成率 101%以上・特筆すべき成果が上がっている
- A → 目標に対する達成率 100～80%・順調
- B → 目標に対する達成率 79～70%・概ね順調
- C → 目標に対する達成率 69～60%・一部改善の必要あり
- D → 目標に対する達成率 59%以下・大いに改善の必要あり

## 1. 社会福祉コース

### 1. 令和元年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
相談職として、総合的かつ包括的な相談援助を行える知識と技術を修得し、利用者支援ができる人材の育成を目指す	S	資格取得希望者全員が所定のカリキュラムを修得できた。	次年度も、学生の進路希望にそった指導を実施する。	
対人援助の視点のみならず、地域福祉の基盤整備と社会資源の開発等の地域支援の視点を有する専門性を修得することを目指す	S	ゼミ等の時間を用いて、社会福祉施設見学やボランティア体験、イベントの企画運営等を実施した。	事前事後学習の不足があり、十分に効果を発揮できていない部分もあったので、次年度は、その点についての改善を実施する。	

### 2. 令和元年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について（自由記述）

就職率も100%を達成し、学生が希望通りの進路を選択できたことは評価できる。  
留学生については、日本語の理解度の困難度からくる指導の難しさがあったが、引き続き卒業まで指導を続けたい。  
次年度は、体制が新しくなる予定である。現在ある学生たちとの関係を維持しつつ、新たに構築し、学生たちの進路希望を引き出し、それらに基づいた指導ができるように努めたい。

## 2. 医療事務・秘書コース

### 1. 令和元年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
医療事務関連資格については下記の合格率を目標に対策を行う。 ・医科医療事務管理士合格率 80%以上 ・医事コンピュータ技能検定 3 級合格率 85%以上 ・調剤事務管理士合格率 80%以上	A	・医科医療事務管理士合格率 84.2% ・医事コンピュータ技能検定 3 級合格率 56.1% ・調剤事務管理士合格率 49.1%	次年度においても、1 年次から積極的に資格取得に向けての情報提供を行い、受験希望者には補講体制の強化を図り、合格に向けたフォローを実施し、合格者数を増加させたい。特に医事コンピュータ技能検定については、医療事務実践及び医事コンピュータの授業内で対策を強化し、85%以上の合格率を達成させたい。また受験者の少なかった秘書検定についても、授業内での対策を強化し、合格者数を増加させたい。調剤事務管理士については、授業内での試験対策を強化させ、80%以上の合格率を達成させたい。	
大学病院、総合病院への就職率について前年と同程度の水準(67%)を維持する。	S	総合病院への就職率は 82%であり、本年度の目標を達成した。	次年度においても、ゼミ担当教員が履歴書やエントリーシートの添削、面接指導等を行い、また、キャリア支援室と連携し大規模病院の求人票を学生に提供するなど、学生に対して総合的な就職支援を行う。	
就職率 100%を達成する。	S	今年度も就職率 100%を達成した。	学内での医療法人就職説明会の実施、模擬面接の実施、個別面談の実施などを遂行するとともに、キャリア支援室と連携し就職率 100%を目指す。	
シラバスの組織的作成・統一化に取り組む。	S	教員間によるシラバスチェックを行い、シラバスの組織的作成・統一化に取り組んだ。	次年度においても、シラバスの点検及び組織的作成に取り組む予定である。	



<p>志願者数を前年より増加させるとともに、入学定員を確保する。</p>	<p>A</p>	<p>志願者は減少したが、コース定員を充足することができた。</p>	<p>本コースの強みや魅力を整理するとともに、オープンキャンパスにおいて本コースの特徴を分かりやすく説明する。</p>	
--------------------------------------	----------	------------------------------------	---	--

## 2. 令和元年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について（自由記述）

就職率については、5年連続100%を達成することができた。また、病院への就職者数が43人と過去最高となった。次年度においても、早い段階から就職支援を行い、本年度と同等程度の水準を維持したい。資格取得についても良好な結果となっているが、次年度は「診療報酬請求事務能力認定試験」など難易度の高い資格試験の合格率を高められるように、予習・復習の徹底や授業内における検定対策を強化したい。

### 3. 介護福祉専攻

#### 1. 令和元年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
介護福祉士国家試験において90%以上の合格率を確保する。	B	合格率は96.2%である。	介護福祉士国家試験の合格ラインは60%であるが、問題の難易度により年度によって変動している。よって、合格率を確実に上げるためには、全員の得点数を伸ばす対策が必要である。模擬試験や書き込み式参考書の対策はそのまま続行し、さらに日頃の定期試験での成績不振の学生に対する個別指導を行うべきだと考える。そのためにも、5月の模擬試験の結果から、3人の教員で個別指導体制をつくっていく必要がある。	
介護福祉士として求められる基本的倫理観(態度・マナー)を身につけ実践できる学生を育成する。	A	授業中やそれ以外でも学生としての態度やマナーの大切さ、言葉遣いや他者への配慮についての指導を行い、特にゼミや実習指導などで強化していった。介護福祉実習評価において、施設実習ⅠⅡⅢにおける態度面での評価を集計した結果、96.2%がB以上の評価であり、在宅実習Ⅳでは100%がB以上の評価であった。よって、介護福祉士としての基本的姿勢や態度は修得できたと考える。	学生の態度やマナー、言葉遣いは、教員の態度が反映しているものと考えている。よって、教員自身が常に気をつけて模範となるよう言動を注意することを、常勤・非常勤含めて確認をしていこうと考えている。介護福祉士としての倫理観を身につけることは、介護実習の中でも各講義の中においても、養われていくものであって、複数の場面で指導・教育して、はじめて実現するものであり、今後も教員間での共有を図っていこうと考える。	
介護福祉士資格取得を目指す学生において、やむを得ない事情(健康状態ならびに家庭の事情、経済的事情など)を除き、中途退学者が出ない。	S	介護学生1年生、2年生ともに中途退学者は出ない。在学3年目の留学生においても、学習面・生活面・体調面で常に気をつけて接することで精神的にも安定し卒業単位も取得できている。介護福祉士を目指している留学生3名についても、経	成績だけではなく、出席率や学生同士の関係性も気をつけて見ていき、学修が継続できるよう支援していく。少人数であるため、一人ひとりの学生について気を配ることができているが、もっと一人ひ	

		済面、学習面、生活面において困難なことも発生したが、その都度対応することで継続的学修が可能となっている。	とりの個別性に応じた指導を行うことが大切だと考える。
就職率 100%を確保する。	S	就職率は 100%である。	介護福祉職の職場は年々多岐に亘って拡大しており、学生一人ひとりが自分の特性に合った就職先を選択することに時間がかかる傾向にある。しかし、学生が希望すればほとんど内定につながるので、焦らずに自分自身を見つめる時間をとっていきたいと考える。就職してもすぐに離職することを避ける方が重要と考えている。
入学定員の確保を目指す。	D	入学定員に占める入学者数は 40%である。	小学校や中学校、高校に対して、介護に関する出前講義などを行っていきたいので、アドミッションセンターと連携をとっていく必要がある。社会的な PR をしていくことが大切だと考える。介護宣誓式などの取り組みをもっと高校へのアピールに使っていかうと考えている。

## 2. 令和元年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について（自由記述）

学生数の確保に関しては全国レベルでの落ち込みであり、困難な状況が続くと予想される。他学との連携を図り、介護福祉士資格全体のことを考えていく必要があるといえる。国家試験合格率に関しては、学生数確保のため希望者は全員入学としており難しい状況もあるが、個別指導によって 100%を目指したいと考えている。

## 4. こども学科

### 1. 令和元年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
保育士資格および幼稚園教諭二種免許状の取得はもとより、専門職を目指すものとして自覚を持って主体的に学修を進めることができるよう、関連資格取得のサポートをはじめとした教育内容の充実を図る。	A	免許・資格の取得を目指すことは、建学の理念「利他・共生」を実践できる幼稚園教諭や保育士としての進路達成にむけての主体的な学修を支える。学生支援部等の学内組織との協働連携の下、きめ細やかな教育指導・支援に努めた結果、2020年3月卒業生の取得率は、幼稚園教諭二種免許状 87.7%、保育士資格 86.9%、育児セラピスト1級・ABM ベビーマッサージインストラクター各 69.4%、ピアヘルパー8.3%、准学校心理士 100%であった。(中退率は 4.37%。全学科コースの平均中退率 4.40%。)	前年度と比較して、幼稚園教諭二種免許状 4.9%、保育士資格 2.6%、それぞれ取得率が上がった。新設の准学校心理士については、今年度は周知広報活動が中心になり資格審査申請者数が少なかった。次年度は各資格についての周知・指導を組織的計画的に行っていきたいと考えている。学修半ばでの退学の予防的な支援・指導のために、学生支援部・学生相談室等との協働連携にもいっそう努め、更に教育内容の充実を図る。	
2019年度入学生から適用の新保育士養成課程と旧カリキュラムを併設し、新入生と2年生の学修に対応する。	A	新保育士養成課程を構成する各科目について、2年間の養成課程における学修に配慮し、保育士資格および幼稚園教諭二種免許状の他、関連各資格取得等に必要な学習にも主体的に取り組めるような学年配置を行った。	次年度においては、新保育士養成課程を構成する各科目に関する学年配置等が適切であったか等その評価や効果について検討する。	
本学卒業生を含む現職保育者へのスキルアップ・学習機会として、「教員免許状更新講習」・「東京都保育士等キャリアアップ研修事業」に取り組む。	A	「教員免許状更新講習」(第一回)を2019年8月2日に開催。「東京都保育士等キャリアアップ研修事業」も受託、開催した。	引き続き、「教員免許状更新講習」を開催するとともに、「東京都保育士等キャリアアップ研修事業」を受託し、開催の適切な時期やより充実した内容として実施できるよう検討を重ねる。	

## 2. 令和元年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について（自由記述）

今年度においては、こども学科の教育活動の評価として、三点にわたる教育活動計画に基づき実施してきたが、昨年度と同様、概ねその目標を達成することができた。昨年度、免許・資格の取得率低下に関する検討課題が挙げられていたが、今年度は取得率に改善がみられた。さらに次年度に向けても学生一人ひとりの進路や適性も鑑みながらいっそう濃やかな指導に努めたい。また、学生募集の現状に少しでも歯止めをかけるべく、本学の三つのポリシーの点検・検討等を行い、これを基軸に組織的に具体的な方策を策定し、可能なところから急ぎ着手しなければならないと考えられる。

## 5. 募集・入試委員会

### 1. 令和元年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
各学科の入学定員を確保するために 出願者数・オープンキャンパスの目 標来場者数を達成する。	C	当初目標の出願者数に対して結果は 68%であった。 当初目標の来場者に対して結果は 147%であった。	高校訪問やガイダンスへの継続参加、 HPやSNS等を活用した広報活動の 充実、オープンキャンパスの提供内容 の改定を行っていく。	
出張講義の回数を前年度より増加さ せる。	D	出張講義回数：前年度 12 回に対し、今 年度は、4 回と減少した。	次年度においても引き続き積極的な参 加を促進していく。	
ホームページの閲覧数を前年より増 加させる。 (Google アナリティクスによる時 系列的比較を実施)	A	セッション数：前年度 138,409 回に対 し、今年度 172,588 回。 ユーザーアクセス数:前年度 68,215 回 に対し、今年度 93,823 回。 ページビュー数：前年度 470,312 回に 対し、今年度 566,740 回。	アクセス数は、前年度より 25%増加し た。オープンキャンパスや入試案内へ のページビュー数についても 37%増 加した。今後もブログ更新の頻度を向 上していく。	*ホームページ の閲覧数は、 2020年2月28 日現在のもの となる。
資料請求者数（入学案内）を前年よ り増加させる。	B	前年度の資料請求者数：4,969 件。 今年度の資料請求者数：6,214 件。	本学の資料を請求されるよう広報活動 の展開を図っていく。	資料請求数は、 2020年3月9日 現在
オープンキャンパス参加者の出願率 を前年より向上させる。	A	オープンキャンパス参加者の出願率： 前年度 38.9%に対し、今年度 42.8%	教職員間の協力体制強化、在学生の積 極的な活用、提供内容の精査を行う。	

### 2. 令和元年度の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について

昨年と比較し、オープンキャンパスの来場者数は減少したが、オープンキャンパス参加者の出願率はやや向上した。  
入学定員の充足に関しては、こども学科で 213 名（250 名定員）、介護福祉専攻 16 名（40 名定員）と定員割れという結果となった。  
オープンキャンパスについては、委員会で検討・審議し、内容の改善を図り、参加者数の増加と更なる出願率の向上へと結びつけたい。新たな入試制度が始まるため、出張授業を増やすとともに、定員確保に向けた対策を講じる。

## 6. 教務委員会

### 1. 令和元年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
教育課程 (ア) 本学で実施されているアクティブラーニングの実践例を収集し、FD等を利用して周知、さらなる実践につなげる。	B	アクティブラーニングを含む授業実践例について、学内の教員による FD を実施した。	FD におけるグッドプラクティスの収集は継続しつつ、実践にどうつながったかを確認する機会を設けることが望ましい。	
教育課程 (イ) 学科の特色と授業形態に基づいたコモン・ルーブリックを策定し、認証評価の適格判定、私立大学改革総合支援事業(タイプ1を想定)での得点獲得を目指す。	C	アクティブラーニングについて外部講師を招聘しての FD を実施し、併せて本学のコモン・ルーブリックの素案を作成した。	素案の改善を行い、実際に学生が使用する段階の試みにつなげる。	
教育課程 (ウ) 学生の授業外学習時間調査、シラバスの組織的作成・統一化・第三者評価、履修系統図について、教育・研究・管理運営等に関する目標・成果指標、自己点検報告書等に応じて改善を行う。	B	授業外学習時間調査を含む授業評価アンケートの内容について、認証評価、私立大学改革総合支援事業、一般補助の観点から、項目の見直しを行った。またホームページでの結果の公表を決定した(3月末までに実施予定)。またシラバスの第三者評価は教員全員による相互チェックの上、学科長、教務部長、教務委員長、教務部による二重チェックを実施した。履修系統図についても改善案を検討している。	継続して項目及び結果の公開等をPDCA サイクルの中で検討していく。また、現在のカリキュラムマップを改善することで履修系統図を見直す。具体的には DP との各科目の関係の明示、ナンバリング等の付与を検討する。	
教育組織 (ア) 本年度も FD 研修会を合計 3 回 実施し、内 1 回は外部講師を招聘する。また、研修成果が授業にどう活	B	計画通り FD 研修会を合計 3 回実施し、内 1 回は外部講師を招聘した。他 2 回は本学教員が授業実践例を報告した。これまでの研修の効果を反映した	次年度も継続して FD を行うことに加え、研修成果が授業にどう活用され、教育力の向上につながったのか報告する機会をどう設けるかを検討する。	

用され、教育力の向上につながったのか報告する機会をつくる。		内容だったと言えるが、それ以外に研修成果が授業にどう活用され、教育力の向上につながったのか報告する機会は設けられなかった。		
教育組織（イ） 授業評価アンケートを前期、後期各1回、年度計2回実施し、評価結果を学内で閲覧できるようにする。また、教員に対し、評価に基づく自己点検を行う機会を設け、授業改善を促進する。さらに、授業改善につながる取り組みの公表を行い、より良い授業実践への表彰を検討する。	B	計画通り授業評価アンケートを実施し、今年度は学生支援部内でその結果を閲覧できるようにした。また s-navi アンケート機能を活用し、自己点検、改善の機会を設けた。FD を通じて授業実践の好例を報告、共有した。表彰は現状では実施できていない。	授業評価アンケートの実施、結果の公表、教員の自己点検について今年度の内容を継続して実施する。またより良い授業実践の表彰等を継続して検討し、授業改善を促進する方策を実施する。	
学生支援（ア） オフィスアワーの周知徹底。対応事例の収集・共有。	B	学生へのオフィスアワーの周知は積極的に行った。 オフィスアワーの設定は s-navi の機能を活用しながら専任教員においては全員実施した。しかし、専任教員以外では1名未設定であった。	専任教員以外への設定確認の方法を再検討する。対応事例の収集・共有はできていないため、これを行う。	
学生支援（イ） GPA が 1.0 未満の学生に個別対応を実施する。本年度は、個別支援対象者の面談を 100%実施し、相談内容タイプに応じた連携先や継続支援の方法を検討する。	A	個別支援対象者への対応は委員会を通してゼミ教員へ連絡する手続きが安定して行われており、留学生を除き 100%実施できた。ゼミ教員からの報告については書式を定め、提出を徹底した。	保健室、学生相談室との連携も行われているが、個別のやり取りになっているため、委員会としてより統一的に状況を把握し、より良い連携、支援を考えることが望ましい。また留学生への対応を再検討する。	

## 2. 令和元年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について（自由記述）

FD、授業評価アンケート、オフィスアワー、学生面談等、昨年度までの達成事項を後退させることなく継続できたことは良かった点である。書式の作成や s-navi の活用、周知とリマインダ等の努力が結実した成果であり、次年度も変わらず継続したい。また、コモン・ルーブリックの素案作成や授業評価アンケートについては、計画的に進めることができた。  
コモン・ルーブリックの試行、カリキュラムマップの改訂については、今後も検討を継続する。



## 7. 学生委員会

### 1. 令和元年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
新生セミナー等、年度初頭行事の準備と運営	S	建学の精神について理解し、自校教育を行うことができた。また、大学生活全体について理解を深め、学生相互や教員との親睦・交流をはかることができた。	大学生活についての理解、学生相互の交流などを深められる短大単独開催に向けて、学生主体となる魅力あるプログラム、実施日程や場所を検討する必要がある。	
学内行事（淑徳祭、体育祭など）の準備及び運営への支援	S	約1ヶ月で両学科の1・2年生が話し合いながら事前準備と当日の運営を行った。好天に恵まれ大きな怪我もなく、参加者全員満足できる体育祭となった。	学生満足度、参加率共に高いが、各学科の実習や就活の実情に合わせた実施内容、時期をさらに検討する必要がある。	
学生からの要望を反映できるシステム作りと学生生活の向上	B	各行事実施直後に満足度等の調査、または定期的な学生生活アンケート等を実施した。短大基準協会の学生アンケートも並行実施した。	行事ごとのアンケートは遺漏なく実施し、常に改善点を検討する。（※淑徳祭のアンケートが学生生活アンケートと同時期になり失念、後日実施）	
学生の学籍異動に関する早期把握・予防的な試みの検討	B	学生相談室と連携し、学生の就学継続等に向けて検討を行った。欠席が目立つ学生はゼミ担任が把握し、早期に学科全体で共有・対策を検討した。	授業等の様子、学習の取り組みなど教務委員会との連携を含め、人間関係など学生実態についてより早期に情報を集約するシステムや委員会の在り方を模索する。	

### 2. 令和元年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について（自由記述）

- 淑徳祭の準備と運営は東京キャンパス全体（人文学部・短期大学部と合同）で行い、人文学部と短期大学部の両学生が話し合いながら協力し、雨天の中、来場者に好評、学生たちも満足する学園祭となった。学生、教職員の協力の下、研究発表等を多く実施し、研究発表などがわかりやすく紹介されるように変更した。【次年度への課題】研究発表の形式や時間帯に応じた教室利用、多様な発表形式などについて、学生主体で検討する必要がある。
- 体育祭は前年度の評価に基づき、準備等の学生参加の負担を軽減し、熱中症等にも十分な対策を実施し無事終了した。

3. 【次年度への課題】 コロナウイルスによる開催中止。その他の行事についても変更、修正を余儀なくされる懸念がある。感染症予防・対策の具体的な検討を委員会だけでなく学内各部署一致で、危機管理を徹底する必要がある。
4. 2年生の就職活動や実習期間と重複する行事についての見直し。また、熱中症対策、感染予防などが日常生活での注意喚起や手洗い、消毒など授業を受ける際の留意事項をマニュアル化し徹底。感染症に対し長期的な見地から、健康状態等、学生生活上の注意喚起を行う必要がある。
5. 学生生活アンケートの結果について、課題点や改善策を学生会内で更に検討する必要がある。
6. コロナウイルスによる経済状況の急変、生活の激変に対応する奨学金の措置、面談等の実施と相談窓口を充実させる。

## 8. 図書委員会

### 1. 令和元年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
図書館の入館者数について、20000人を目標とする。	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・22665人である。目標値の113%を達成している。</li> <li>・講義等での図書館利用は、11回である。</li> <li>・学生から要望の強かった通信環境を整えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信環境の改善をしたい。</li> <li>・パソコンを使用した学習環境の向上に向けて、電源が使用できる学習環境を整えていきたい。</li> </ul>	
館外貸し出し実績について、1500冊を目標とする。	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期大学の貸し出し実績は2443冊である。目標値の162%を達成している。</li> <li>・読書マラソンの継続者が増加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館ガイダンス時の貸し出しをする。</li> <li>・読書マラソンの運営に関し、無理なく継続できるシステムの見直しをしたい。</li> </ul>	
学生図書委員活動を通じ、図書館利用の推進をする。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書委員活動としてPOPおよび読書感想文の提出25名、選書ツアー参加者6名である。</li> <li>・昨年度作成したPOPを、オープンキャンパスにおいて展示し、図書館および図書委員の活動をPRした。</li> </ul>	<p>図書委員の活動をPRするために、今年度作成したPOPの展示を、前期中に企画したい。</p>	
こども学科・健康福祉学科の資格取得に関わる図書および資料価値の高い資料を収集し、図書館の充実化を促進する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員による選書ツアーを実施した。5名が参加し、461冊を選書した。</li> <li>・各教員に図書選書について依頼をする。</li> <li>・来年度のシラバスについて、参考図書への記載をお願いした。</li> </ul>	<p>教員の選書ツアーについて、次年度は回数を増やし、多くの教職員に参加してもらい、さらに図書館の充実化を促進したい。</p>	

### 2. 令和元年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について

<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度の図書委員会では、昨年に引き続き、人文学部との連携を行ってきた。実際には、委員会に森田館長が出席してくださり、多岐に渡る図書館運営に関して、情報共有ができたことは非常に有益であり継続したい。</li> <li>・図書館ガイダンスと同時に図書の貸出を試みた。学生の反応は好評であった。次年度も引き続き、図書館ガイダンスと貸出をセットにして進めていきたい。</li> </ul>
--

い。

- ・図書委員の各先生方の努力もあり、読書マラソンでの継続者が増加した。一方で、読書カードへのコメント付け、返却の作業が膨大になり、予想外であったが、学生からは概ね好評とのことである。継続者が増えたことは大変喜ばしいことであるが、図書館職員および図書委員の作業量が増加傾向にあり、システムの見直しを考えたい。
- ・アドミッションセンターと連携し、オープンキャンパス時にPOPの展示を実施した。来場者に図書館をPRすることができた。
- ・学習環境整備については、学園のご尽力もあり、計画的に進んでいる。現在は、通信環境の改善が予定されている。また、学生がパソコン等での学習・研究ができるように、電源についても増設の要求をし、学習環境の整備を図りたい。
- ・図書選書が12月以降に駆け込み的になってしまったので、次年度は計画的に選書ができるように努めたい。

## 9. 紀要委員会

### 1. 令和元年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
第60号の発行に合わせた具体的な執筆・投稿規程の一部見直し	A	発行時期と締切の時期の設定・見直し(旧10月20日→11月末締め切り。余裕を持った執筆期間)について、教授会にて承認を受ける)を行う。	査読にかかる期間、校正の回数など、更に充実した執筆期間設定のための検討を行う。 併せて査読基準など規定の見直し。	
年度内2回の紀要発行。『淑徳大学短期大学部紀要』第60号(令和元年10月末)、第61号原稿を募集、発行する(発行令和2年2月末予定)。	A	『淑徳大学短期大学部紀要』第60号、第61号を発行した。	予定通りのスケジュールに沿って発行を出来るように、原稿の提出や査読の締め切りを厳守してもらう。	※次年度も二回、複数号発行の予定である。
できるだけ多くの教員(専任・非常勤問わず)による投稿を受け付ける	C	こども学科の課程認定に限らず、健康福祉学科からのエントリー(辞退2件)、非常勤等、外部研究者の投稿がある。	こども学科の教員以外、非常勤、外部の研究者、健康福祉学科専任教員の執筆を継続的に推奨する。	
発行部数、サイズ、今後の紙媒体としての在り方(ROMの廃止)、抜き刷りの要否(実費以外で最低限)、研究成果の反映	A	人文学部他、四大の紀要の版に揃え、装丁等の検討を試みる議論を行う。60号よりCD-ROMの廃止の審議もおこなった。	令和2年度4月以降の教授会にて審議事項として提出。62号より新規A4判にて発行する。	

### 2. 令和元年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について(自由記述)

1. 各領域の専門的な知見を対象とする研究論文と、保育者養成校としての新規の研究・発展可能性を有する研究ノートやアクティブラーニング等の授業実践、実践報告なども含め、その掲載や区分の判定に関する基準の検討・見直しを引き続き行う。
2. 教員自らの「学びに向かう人間性」(\*文部科学省)によって成される「授業の質」担保を具現化するものであるとの観点から、できるだけ多くの教員(専任・非常勤問わず)による投稿を継続的に受け付ける。
3. 学会の基準や昨今の他大学の「学内紀要の」査読事情をもとに「査読基準に関する素案」について審議を継続する。
4. 研究倫理に基づき、そのアカデミックな手法・手続きに関して、研究者としてのコンプライアンスを遵守すべく、オーサーシップの明記や先行研究、引用・参考文献等の記載に関する規程、執筆・投稿規程等を見直し、随時検討していく。

## 10. ボランティアセンター運営委員会

### 1. 令和元年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
ボランティアセンターの認知度を上げ、ボランティアセンターの利用頻度を上げることが目標である。そしてボランティア活動が学生自身のスキルアップにもつながること、就職活動に活かせることなどを発信していく。	A	ボランティアの説明会を2回実施した。説明会を契機に新規の活動につながった。学生が主体的に実施したい活動内容をセンターでコーディネートし、新規の活動が4件実践された。 利用者数 4月：短大135名、人文学部5名 5月：短大281名、人文学部13名 6月：短大347名、人文学部48名 7月：短大337名、人文学部21名 8月：短大53名、人文学部0名 9月：短大131名、人文学部8名 10月：短大71名、人文学部5名 11月：短大51名、人文学部15名 12月：短大64名、人文学部18名 1月：短大35名、人文学部14名 2月：短大23名、人文学部4名 3月：短大0名、人文学部0名	学生の具体的なニーズを把握し、ケースごとにボランティア実績を増やす。	
短期大学のボランティアについて共生体験をはじめとする1年生のボランティア活動について希望に沿った活動をコーディネートするとともに、3回目以降のボランティア活動の継続性を上げる。	A	共生体験のコーディネートは円滑に行うことができ、希望者全員の共生体験をコーディネートすることができた。232名が3回目以降のボランティア体験（授業外のボランティア体験）に参加しており、前年度から増加した。教員の協力による活動も多く、教員と連携した事業内容も増加している。	ボランティア後の事後学習や、活動内容を積極的に公開し、学内への周知が課題である。新規学生の参加や3回目以降の継続した活動についての広報は引き続き行う。新規案としてゼミ等と連携しつつ、体系化された活動に注力する。	

学生主体の活動助成の制度周知・拡大	A	ボランティア助成制度の学生応募は2件あり、1件採択され、無事に実施された。	周知が課題である。採択された学生へのヒアリング等を通じて、周知のタイミングや、学生にとって活動を立案したくなるアナウンス方法を検討する。	
地域と密に連携を図ったセンター運営を行う。	A	新規連携事業が2件開始された。区内地域との連携は継続し活動しており、連携総数は11の活動となった。	ボランティアセンター運営委員会として連携の実態の根拠となる連携内容が明記された具体的な協定書等の整理（根拠書類が存在しない場合、明文化する）	

## 2. 令和元年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について（自由記述）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内教員の協力による活動は増加しているが、委員以外の教員にも積極的に情報提供を行い、ゼミ単位での活動など学生が動きやすい形を模索する。</li> <li>・助成制度の周知について、学生へのヒアリングや教員との連携で周知のタイミングや方法について検討する。</li> <li>・地域団体や施設からの学生への期待やニーズに対して、学生の学びにつながるような活動内容の調整やフォローについて事前調整を丁寧に行い、継続的な活動参加と地域との関係づくりに努める。</li> </ul>
---

## 1.1. 内部質保証委員会

### 1. 令和元年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
各学科コース、委員会による自己点検・評価の結果を全学的な観点から検証するとともに、自己点検・評価の結果を取りまとめた報告書を作成する。	A	内部質保証委員会を開催し、学科・委員会等から提出された自己点検・評価報告書について検証を行った。また、短期大学基準協会の認証評価基準に準拠した自己点検・評価報告書を作成した。	PDCA サイクルに基づく全学的な内部質保証システムを確立する。具体的には自己点検・評価報告書において課題となっている事項について各学科、委員会等に更なる改善を促し、教育・研究の質の向上に取り組む。	
内部質保証について組織内の理解を促し、組織文化として定着を図る。	A	学内において教職員、事務職員を対象にSD研修を実施した(2019年7月25日実施)。具体的には、証評価制度や短期大学基準の概要を説明するとともに、「自己点検・評価報告書」の書式の紹介及び受審スケジュールの説明を行った。また、ALOからはこれまでの評価員の経験に基づいてALOの役割や内部質保証の重要性などについて説明を行った。	次年度は認証評価受審の年でもあるため、FD、SD活動を通して、自己点検評価活動や内部質保証の重要性について更に理解を促したい。	
内部質保証の妥当性を客観的に担保するため、外部評価委員会による評価を実施する。	S	2019年12月14日(土)に「淑徳大学短期大学部外部評価委員会」を開催した。外部評価委員は中川修一氏(板橋区教育委員会 教育長)石山智典氏(東京都立板橋有徳高等学校 校長)、宇津木忠氏(特別養護老人ホーム ケアポート板橋 施設長)、山之内敏彦(社会福祉法人三共会 理事長)の4名から本学の教育・研究活動、学校運営等について評価及び助言を受けた。	教育・研究水準の更なる向上を図るため、次年度においても学外有識者による外部評価委員会を開催する予定である。本年度は委員による審議時間が短かったため、次年度においてはタイムスケジュールを見直し、質疑応答及び審議を十分にできる時間を確保したい。	



## 2. 令和元年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について（自由記述）

SD 研修等を通して、内部質保証の重要性について理解を促すとともに、組織文化の醸成を図った。また、内部質保証の妥当性を客観的に担保するために、外部評価委員会を開催し、本学の教育・研究活動・学校運営等について評価を受けた。次年度においては、自己点検・評価報告書において課題となっている事項について更なる改善を促し、教育・研究の質の向上に取り組む。また、外部評価委員会において指摘を受けた課題を踏まえ、全学的に改善・改革を推進し質保証に取り組む予定である。

## 12. 教職課程運営委員会

### 1. 令和元年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
年2回以上、少なくとも、前期1回、後期1回は、教職課程の現状確認と今後に向けた協議の場を設ける。	A	令和元年度は、教職課程運営委員会で年2回の協議の場が設けられた（前期は5月16日、後期は2月13日）。教職課程の現状確認を行った。	引き続き、教職課程の現状確認を行う協議の場が必要である。	
本学の教職課程の現状確認を行い、5月末までに本学ホームページにアップされている教職に関する情報の更新を行う。	A	教職に関する情報の更新は、本学HP(ホームページ)に平成31年4月30日付で情報公開として、教職に関する情報の更新を行った。	本学HP(ホームページ)にある教職に関する情報の確認を行いつつ、情報更新が必要な情報について検討を行っていく。	
年度末までに、教職科目に関する研究業績の確認を行う。	A	教職に関する情報の更新に向けて、教職科目を担当する教員業績数の確認を行った。	引き続き、教職科目の担当者向けの業績確認が必要である。	

### 2. 令和元年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について（自由記述）

令和元年度の活動は、目標である教職課程運営委員会としての協議する場の設置、教職科目担当者の業績確認、教職に関する情報更新という、すべての目標を達成することができた。また、新しい教職課程の導入に伴い、令和元年度の新入生向けに「教職カルテ」を検討・作成した。次年度は、再課程申請で認可された新しい教職課程の教職科目が導入2年目、完成年度にあたるため、振り返りが必要であろう。

### 13. ハラスメント防止委員会

#### 1. 令和元年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
専任教職員全員が参加する「ハラスメント防止研修会」を開催し、ハラスメントに関する意識を高め、ハラスメントに該当する言動をしてしまわないように注意喚起を行う。	A	2019年11月28日(木)16:00～17:30、「ハラスメントに関する法整備の現状について」の山形大学中澤未美子先生による講演を録画映像で受講(大学と共用)。終了後アンケートを実施した。教員22名、職員については大学の研修時に18名参加。 2020年3月5日(木)16:00～17:30、アカデミック・ハラスメントに関するDVD視聴及びグループワークを行った。教員23名、職員3名参加(職員については大学の研修時に17名参加)。 計画どおり、年2回の研修会を実施することができた。	ハラスメント研修後のアンケート結果においては、「勉強になった」「今後に活かしたい」などの意見が多かった。教職員のハラスメント防止に関する知識、意識の向上に繋がったと考えられる。 また、今回は録画した動画を使用したため、当日出席できなかった教職員に後日視聴させることができた。 次年度は、他学部における研修状況の情報も収集しながら、更なる効果的な研修を実施して行きたい。	
上記研修会に非常勤教員も参加できるようにすることを目指し、できない場合も注意喚起のパンフレットを非常勤教員に配布する。	D	令和元年度のハラスメント防止研修会に非常勤教員に参加いただくことはできなかった。注意喚起のパンフレットについても作成・配布することはできなかった。	非常勤教員については、出校日や契約上の問題もあり、ハラスメント防止研修会への参加してもらうことは困難である。次年度は全教員会等で注意喚起等を行うなど別の方法の検討を進めたい。	
学生向けのパンフレットづくりは昨年度から進めているが、今年度はそれを完成させ配布する。	A	学生向けのパンフレットについては、ハラスメント防止の啓発や相談方法等を記載したものを作成し、全学生へ配布することができた。	全学生へパンフレットを配付するという目的は達成することができた。次年度はパンフレットの更なる充実に向けた検討を行って行きたい。	

## 2. 令和元年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について（自由記述）

ハラスメント防止について、教職員の意識向上や学生への周知等、全体的に一定以上の効果を上げることができた。  
当初の計画には入ってなかったが、ハラスメント相談員の4名の教職員について大学で実施されたハラスメント相談員のトレーニング研修会に参加してもらうことができた。  
潜在的なハラスメントが存在する可能性もあるため、次年度もハラスメント防止に関する情報収集を進め、ハラスメントのないキャンパスづくりに努めていきたい。

## 14. キャリア支援委員会

### 1. 令和元年度目標に対する自己点検評価

評価する内容(目標)	評価	評価の視点	次年度に向けた改善点	備考
就職決定率 100%の維持	S	就職決定率 100%を達成した。また、公務員試験豪華者数が大幅に増加した。	引き続き、就職決定率 100%を維持するための取組みを行う。S-Navi を活用した就職情報の積極的な配信を継続する。	
卒業後の学生の動向把握と定着率の向上 卒業時アンケートの実施と結果に基づくキャリア支援の改善	A	卒業後の学生の動向把握および定着率の向上のため、卒業後アンケートを卒業生および就職先を対象として実施した。また、卒業時には卒業生アンケートを実施した。また、これらのアンケート結果に基づき、要望の高かった就職内定者ガイダンスを新たに実施した。	卒業後アンケートの集計結果を取りまとめ、キャリア支援の改善に活用する。	
各学科学生の要望に合う就職支援方法の検討	A	教職員の連携を強化し、一人ひとりの学生に対し、ゼミ担任との情報の共有を図ることができた。	学生の動向調査など、今後も各学科、コース毎に、委員会からの周知徹底を図る。	

### 2. 令和元年度の活動の総合評価と次年度の活動計画に活かすべき課題について (自由記述)

委員会活動においては、概ね円滑な運営がなされた。重要な点としては、就職決定率 100%の維持のための、就職情報の丁寧な情報発信を継続すること、各アンケート結果に基づく、キャリア支援の柔軟な支援体制を整えること、そして、学生の個別支援にあたっては、様々な教職員の専門性を活かすことである。